

パパ・ママ子育て知恵袋

第11回は「グランマ知恵袋」

K子ちゃんは、小学校4年生。

大好きなクマさんのぬいぐるみを大切にしていました。

まだ赤ちゃんの頃に買ってもらったそうで、お母さんによると、ご機嫌が悪いときもクマさんを持たせると落ち着いたくらい、K子ちゃんにとってお気に入りなのだとか。4年生になった今でも枕の横に置いて一緒に寝ないとだめなんだそうです。

何度も洗濯してきましたが、他の人には「雑巾のように」見えると、中学生のお姉ちゃんにからかわれます。

K子ちゃんは誰にも言っていませんが、目下最大の悩みは、来年の宿泊行事に、このクマを持っていけるかどうか、持っていったとしても友達からバカにされないか……なのです。それくらい大好きな大事なぬいぐるみです。

ある朝、起きていつものようにクマさんに「おはよう」を言おうとして愕然がくぜんとしました。首がもげています。この世の終わりかと思うような叫び声をあげたのですから、お父さん、お母さん、お姉ちゃん、おばあちゃん全員が「どうした！」「なんだ！」とK子ちゃんの部屋に駆けつけました。しゃくりあげながら事情を説明すると、お姉ちゃんは「子供だねえ」と冷笑して、お父さんは頭をかきながら、お母さんは「早く顔を洗いなさい」と言って去っていきました。

おばあちゃんだけ残って、K子ちゃんの頭をなでながら、こう言いました。

「大丈夫、おばあちゃんが直してあげるから、安心しな。でもね、よかったよ」K子ちゃんは、この「よかったよ」を聞いて、頭の中が「？」だらけです。

「これはね、クマさんがK子の『身代わり』になってくれたんだ。きっと今日、K子に嫌なことが起きるはずだったんだよ。それをクマさんが身代わりになってくれた。一晩中、首がとれてつらかっただろうね。ありがたい、ありがたい。嫌なことがあれば、その裏できっといいことがあるもんだよ」

K子ちゃんは（きっとそうに違いない）と思いました。

K子ちゃんは今、30歳になりました。人生いろいろあります。しんどいことがあると、おばあちゃんの言葉を思い出します。

（ものは考え様よう） おばあちゃんの知恵袋でした。